

環境過敏症をご存じですか？

子どもたちの中に環境過敏症が疑われる事例が増えています

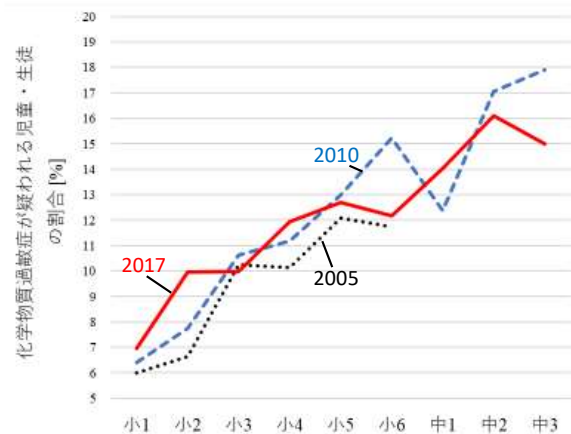
身近な製品などで体調不良

環境過敏症は、身のまわりにある化学物質や電磁波などに対して、多くの人が何も症状を示さない低い濃度や量で、めまい、頭痛、吐き気、腹痛などの体調不良を引き起こす症状です。

普段、化学物質などは使っていないと思うかもしれませんが、原因となるものには、タバコの煙、家庭用の殺虫・防虫剤、化粧品や家庭用洗剤・柔軟剤の香料などがあります。これら身のまわりの多くの家庭用品にも化学物質が含まれています。

電磁波の場合は、携帯電話やパソコン、タブレットなどの電子機器や、街中の変電所や高圧送電線の近く、Wi-Fiなどの無線機器の周辺などで症状が出るとされています¹⁾。

また、一度発症してしまうと、今まで何ともなかった様々な製品中の化学物質や、電磁波などに反応して体調が悪化してしまうため、教室での学習に支障が出たり、学校に行けなくなってしまうこともあります。



小中学生に増えている？

上の図にあるように、最近では、化学物質過敏症が疑われる小学生や中学生が多いという研究報告²⁾があります。この調査では、学年が上がるほど疑われる症状を示す割合が増えていて、中学3年生では6人に1人くらいになっています。

成人（18歳以上）4,725名および1330名で行った2つの調査では、6～8%が化学物質過敏症の疑いがあると報告されています¹⁾。これを15歳未満の子どもの人口に当てはめれば120万人に相当します。

また、アトピー性皮膚炎や喘息などアレルギー症状がある人では、その割合は更に上がって19～23%程度になっていたと報告されています。



香りによる健康被害の増加

最近では、“香害”とも言われる主に他人が使用している家庭用の製品に起因する強い香りで体調が悪くなると訴える人が増えていることが報告されています³⁾。香害をきっかけとして、化学物質過敏症を発症してしまう人も近年増加しています。

被害の訴えが多かったことから、文部科学省や環境省などは、5省庁の連名で香りによる健康被害を周知するポスター（右）を作成しています。しかし、香害は合成香料等による健康被害であるのに、今でも個々人の香りの好き嫌いや快不快の問題だと誤解している方が多いのも現実です。



原因に気がつかないで症状が悪化してしまうこともあります

学校でも、様々な化学物質や電子機器が身のまわりに存在しているため、それが原因で体調不良を起こしていることや、体調不良の原因に気付かないで悪化してしまうことが懸念されます。

私たち研究者や医者は、環境過敏症や香害の実態を知ることや、発症の原因を探って、被害を訴える人の治療に活かすことや、発症しないようにするためにどうしたらよいかを考えていますが、まだ分からないことが多いのが現状です。

今回、お願いした調査も、子どもたちの健康を守るために、まず学校環境での実態を知ることが目的としています。調査が進んで、健康に良くない部分が分かれば、改善して子どもの健康を守ることもできます。そのための一歩である本調査の主旨をご理解いただき、アンケートへご協力いただき、有難うございました。

1) 北條祥子ら「疫学的視点からみた環境過敏症の最新知見と今後の展望」(2022)

2) 永吉雅人「児童・生徒の化学物質過敏症様症状に関する実態—2005、2010、2017年の調査結果—」(2023)

3) 国民生活センター「柔軟仕上げ剤のにおいに関する情報提供」(2020)